

# 生徒の安全を重視した不審者対策避難訓練

仙台市立広瀬中学校 校長 佐山 厚  
〒989-3128 宮城県仙台市青葉区愛子中央1丁目9番1号 Tel (022) 392-2214

## I 学校の規模及び地域環境

1 学校規模 学級数 23クラス 生徒数 764名  
教職員数 60名

### 2 地域環境

仙台市西部の郊外に位置している。学区は広瀬川に沿って東西8Kmの範囲に広がっている。東部は宅地造成がめざましく、生徒数も年々増加している。その一方で、古い町並みの名残があり、直系家族世帯や兼業農家世帯も比較的多く見られる。

## II 取組のポイント

1 生徒の安全を重視した不審者対策避難訓練を実施し、教職員・生徒が積極的に取り組む避難方法を確立する。

2 不審者侵入の非常時における教職員・生徒の動きを明確化する。

3 警察署員による防犯講習会を開き、当日の不審者対策避難訓練の評価と講評をいただく。

また、講話をしていただき、不審者が侵入した時以外でも普段の心構えについての指導をいただき、生徒への防犯意識を高める。

## III 取組の概要

### 1 取組のねらい

(1) 教育現場への不審者による悲惨な事件からの教訓をふまえ、本校に不審者が侵入したと想定し、不審者への対応・生徒の避難誘導・警察等への連絡を含め、教職員と生徒が組織的に適切かつ迅速な対応ができるように、実践的な訓練を行う。

(2) 生徒および教職員への生命の安全に配慮し、被害を最小限に食い止めるための教職員と生徒の役割を明確にして、危機管理意識・能力を高め、生徒への防犯に対する実践的態度を養わせる。

(3) 警察署員による防犯講習会を開き、生徒へ不審者侵入時の対策や日頃から身を守る普段の心掛けなどを含め、いざという時の効果的な方法について生徒へ知らせる。

### 2 取組の内容

#### (1) 日時

平成17年7月13日(水) 5校時

#### (2) 想定

不審者が校舎に入り、2階中央校舎付近を徘徊している。退去命令に従わず、凶器(刃物)を持ち、生徒および教職員に危害を加える恐れがある。

#### (3) 避難場所

- ・安全を確認できるまでは教室内で待機
- ・状況を把握し、安全が十分確保できたら体育館内へ移動

#### (4) 係分担

- |            |                |
|------------|----------------|
| ア 本部長      | 校長             |
| イ 渉外・指令通報  | 教頭             |
| ウ 緊急放送・計時  | 教務主任           |
| エ 搬出(重要書類) | 教頭             |
| オ 救護       | 養護教諭・担任以外の女性教諭 |

カ 生徒誘導方法確認 学級担任

(\*侵入状況把握・生徒避難経路確認)

キ 初期出動班 担任以外の男性教諭

ク 不審者役 本校男性教諭

ケ 評価・講評 警察署員

#### (5) 訓練概要

ア 各教室には担任がつく。

イ 不審者が校内に侵入した場合の教職員による初期対応の訓練を行う。

ウ 生徒は緊急放送を受けて、教員の指示により教室扉にバリケードをつくる。

エ 不審者確保の校内放送後に体育館への避難を開始する。

(6) 訓練過程 (不審者侵入時の対応過程)

今回は二次被害の防止までを訓練対象とする。

段階	訓練項目	生徒の動き	職員の動き	管理者の動き
事件発生	不審者発見	<p>(不審者を見かけた場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くの教職員に知らせる。</li> </ul> <p>(不審者を見かけない場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発見者からの報告に耳をかたむける。</li> </ul>	<p>(不審者を見かけた場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者に「どちらさまですか?」「何かご用ですか? ご用の方は教員玄関で受付をして名札を着用してください。」「ご用がなければ校舎内へは入れません。」を繰り返す。</li> </ul> <p>(不審者を見かけない場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発見者からの報告を聞き、確認をしに動く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒々しさに疑問を持ち、原因を探る。</li> </ul>
緊急対応	緊急事態発生時の第一報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指示に従う。</li> <li>・むやみに騒ぎたて、動かないようにする。</li> <li>・緊急な場合によっては、逃げる・離れる。</li> <li>・場合によっては、教員へ自分の居場所を知らせ、傷などの有無を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発見者は不審者が指示に従わず、刃物を持ち、周囲に危害を加える可能性がある判断し、周囲へ伝える。</li> <li>・近くの教職員へ知らせる。</li> <li>・近隣の教職員で協力して校長・教頭に知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生現場・被害状況の把握をし職員の配置の指示を出す。</li> <li>・110番、119番に通報する。</li> <li>・情報収集と対応の指示を出す。</li> <li>・緊急放送で全教職員及び生徒に知らせる。</li> <li>※予め決められている暗号で校内放送する。</li> </ul>
二次被害の防止	組織的対応・不審者確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の指示で、教室内の扉の内側に机・イスでバリケードを素早く築く。(写真1・2)</li> <li>*机は1ヶ所につき6個程度とし、男子生徒は、イスの足を廊下側に向けて不審者が侵入する気を萎えさせるために構えている。</li> <li>・指示された場所へ速やかに避難する。</li> <li>・静かに教職員の説明を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室にいる教職員が、廊下に出ている生徒がいないことを確認してから各教室の前後の扉の内側に机・イスでバリケードを築かせる。</li> <li>・男子生徒には、イスの足を廊下側に向けさせ、防御姿勢をとらせる。また、教室にある箒等も扉近くの生徒へ持たせる。</li> <li>・報告を受けた男性教員(担任以外)は刺叉・箒・携帯電話等を持ち、不審者を取り囲む。不審者が移動した場合には、その方向を周囲に知らせる。</li> <li>・各クラスの男性教員は机または箒を持ち廊下に出て様子をうかがう。</li> <li>・不審者を複数教職員(警察官)で確保し、周囲に対する危険性が回避されたことを確認してから職員室へ携帯電話で連絡する。</li> <li>・負傷者への応急手当をする。</li> <li>・生徒の安否を確認し、生徒を安全な場所(体育館)へ避難させる。</li> <li>・被害状況を把握し報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全体の安否を確認する。</li> <li>・未確認生徒の搜索を指示する。</li> <li>・複数の教職員(警察官)が不審者の動きを封じたことを確認する。</li> <li>・事実確認と今後の対策について確認する。</li> <li>・教育委員会へ被害状況を報告し、指示を待つ。</li> <li>・不審者を刺激しないように、校内放送での避難の指示をしない。不測の事態に備え、不審者が生徒の目に触れないように避難経路の指示をだす。(各階の廊下にいる男性教諭が各階の教室に連絡をする。)</li> </ul>

段階	訓練項目	生徒の動き	教員の動き	管理者の動き
保護者への対応	保護者への連絡・説明	・保護者と一緒に下校する。 ・保護者とやむを得ず連絡のとれない生徒は帰宅し、保護者が帰宅してから話す。担任からの連絡があることも告げる。	・保護者へ連絡する。 ・保護者へ説明し、引き継ぐ。保護者へ連絡のつかない生徒への指導をする。	・PTA役員へ連絡する。 ・PTA総会の検討をする。
事後措置	生徒への心のケア 警察への協力 報道機関への対応	(不審者避難訓練の場合) ・警察署の方の防犯講習会に参加する。(写真3) ・教室に戻ってから、事後アンケートに記入する。	・担任による家庭訪問と被害生徒の状況把握をする。 ・心のケアの必要性がある場合は、専門医・機関と連携をとる。 (不審者避難訓練の場合) ・警察署の方の防犯講習会の準備をする。警察署の方が来られない場合は、管理主任による本日の講評をする。	・状況によって生徒宅を家庭訪問する。 ・学校医の助言を得る。 ・心のケアの対応について、 ・教育委員会・専門機関との連携を図る。 ・外部に対する窓口を一本化し、警察への捜査協力、報道機関への対応を行う。

### (7) 避難要項

ア 緊急放送とともに、教員は放送をよく生徒に聴取させ、次の措置を行う。

- (ア) 周囲の様子を確認する。廊下に出ている生徒がいたら教室にすぐ入れる。
- (イ) 教室前後の扉前にバリケードを築く指示をする。
- (ウ) 箒や机などの防衛手段に役立つ物を持ってこまえる。
- (エ) 男性教諭は廊下の様子をうかがい、場合によっては不審者を封じ込めたり、連絡係も務める。女性教諭は不審者が近くにいない限り生徒とともに教室のバリケードの内側にいて周囲からの連絡を待つ。

イ 避難開始命令の際の留意点

- (ア) 出口に近い生徒から廊下に出させる。
- (イ) 学級委員先頭で2列縦隊となり、人数を確認してから静粛かつ敏速に避難させる。その際、教員は室内及び隣室を点検する。
- (ウ) 校舎内では走らせない。また、無口で避難させる。
- (エ) 前の人を押させない、追い越させない。
- (オ) 先行者が転倒した場合は、大きな声で「ストップ」をかけ、助け起こした後に「前進」の声をかけるようにする。

ウ 人員点呼の仕方

- (整列後) 学級委員→担任→学年主任→本部
- \*本部には旗を持って教頭が待機している。

### エ 避難順

(不審者を完全に封じ込め、安全が確認された時)  
不審者に近い教室から避難させる。

(不審者を封じ込めたが、安全がまだ確認されていない時)

不審者から離れている教室のみ避難させる。

### (8) 訓練時程

- 13:25 訓練事態発生
- 13:35 避難命令
- 13:40 避難完了
- 13:45 避難後の指導 (防犯教室)
- 14:05 終了

## 3 本校の普段の防犯に対する取組

### (1) 校内

- ア 教職員による不審者対策避難訓練 (刺股の使い方および用具を使った防ぎ方の実演講習会)
- イ 看板・標示の設置
- ウ 登下校時以外の通用門の閉鎖
- エ 受付による来校者への記名・名札の配付  
学校行事の際には、あらかじめ保護者等に学校指定の名札の配付
- オ 警察署の生活安全課からの不審者侵入対策「具体的な対応要領」(資料、2)の教職員への配付と内容確認の徹底
- カ 教職員による来校者に対するあいさつや声掛けの徹底、用件確認や行き先案内を習慣化
- キ 教職員による校内巡視の実施

## (2) 校 外

ア 通学路の安全マップの作成と生徒への安全対策の徹底

イ 登校指導と下校指導の徹底

ウ 地域との連携の強化

エ 警察等の関係諸機関との連携の強化

## 4 実践の成果

本校では、初めて生徒を交えた不審者対策避難訓練を実施した。昨年度は、教職員のみ不審者対策避難訓練を行い、刺又や机を使っての防犯実践訓練を行った。昨年度は、まだ刺又が1本しか備えがなかったので、刺又の効果については教職員の間からも疑問視されていた。しかし、今回の不審者対策避難訓練では、5本の刺又を同時に使うことによってその成果が充分発揮され、教職員間でも十分見直すことができた。

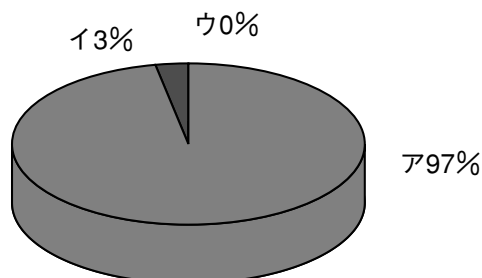
ある教員からは、「不審者から離れている教室からどんどん避難させたらどうか。」という意見がでた。それに対しては、凶器が爆弾や拳銃のような場合には、当然想定が違うのだから避難方法も考え直さなければならぬと考えられる。そうすると、いろいろな場面での不審者対策避難訓練が必要である。今回の場合は、凶器が刃物という想定だったので、不審者から刃物を取り返し、身柄を拘束できた上での避難は妥当だったと考えられる。

今回の不審者対策避難訓練に対して、生徒の意識はどうだったかをアンケート調査をして検証してみることにした。

### 調査 1

不審者が侵入したときに、あわてないで机やイスでバリアードを築いて集団で身を守ることは大切だと思いますか。

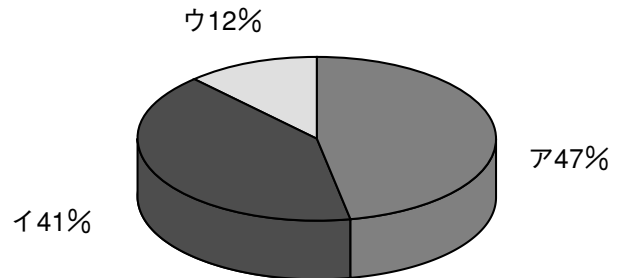
ア はい イ わからない ウ いいえ



### 調査 2

今回の不審者対策避難訓練の内容はいざとなったら、自分の身を守る効果があると思いますか。

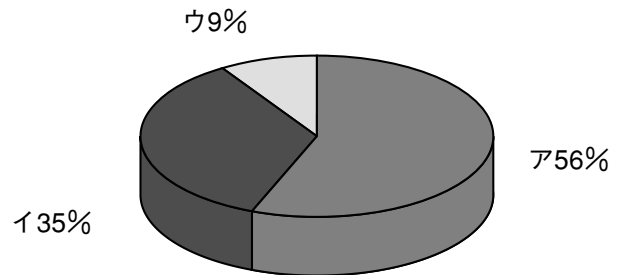
ア はい イ わからない ウ いいえ



### 調査 3

今回の不審者対策避難訓練と防犯講習会を終えて、自分の防犯意識は高まりましたか。

ア はい イ わからない ウ いいえ



### 調査 4

今回の不審者対策避難訓練と防犯講習会を体験してみて、その感想を自由に記述してください。

- 一人一人の身を守るためには、素早くバリアードを築くなどして協力することが大切なことだと思った。(多数)
- 実際に不審者が現れたときにどのように動いたらよいかが分かった。あわてずに行動した方が良いということも分かった。(多数)
- 今回の方法だと実際の時でも冷静に素早く行動できると思った。(多数)
- 落ち着いていると、校内放送や先生方の声で不審者が見えなくてもどこにいるかがよく分かったので良かった。
- バリアードがこんなに素早くできたことに驚いた。本当に不審者侵入が起きてもけっこう有効だと思った。
- みんなで協力して動く早さが良かった。
- 防犯講習会で、危ない時は声を出すことの大

切さが分かった。

△ バリケードと生徒の前に用具を持った教員が立つことでいくらかは安心できるが、まだ不安である。

△ 学校側も、防犯器具等を持たないと防ぎきれないと思う。

△ 防いでる間に、どこからか逃げることはできないのだろうか。

調査の結果から、生徒の意識の中にも今回の不審者対策避難訓練と防犯講習会が効果的だったということが検証できたと考えられる。普通の避難訓練なら、ただ素早く避難して安全を確保することに重点が置かれがちであるが、本校で取り組んだ今回の不審者対策避難訓練は、まず生徒一人一人に何ができるかという観点からスタートした。どの教室の中でも真剣に取り組んだ生徒もそうでない生徒もいたはずである。けれども、あらかじめ担任の方から教室前後の出入り口付近の決められたポジションの6人ずつにバリケード用の机・イスを移動するように決まっているのでバリケードはあっという間に築くことができた。また、教室の中で用具を持って身構える生徒達も箒やイスなどで身を守る体勢をとった。このひとつひとつの役割が生徒の意識を大きく変え、防犯に対する意識が高まったものと考えられる。侵入経路や凶器の種類や侵入時間帯までも意識してそれが避難方法にどのように違ってくるのかまでを意識している生徒もいるので、今後さらに避難方法を学校側として検討を加えていきたい。

資料1) 不審者対策避難訓練・防犯講習会風景



写真 1

教室の中から見た机といすで築いたバリケード。とっさのことなので、生徒の重い通学鞆もバリケードのおもりとなる。左側は写真を撮影するための教員が通ったために隙間が空いているが、実際はもっと扉の近くにバリケードが存在していました。



写真 2

廊下側から見たバリケード。侵入するのに躊躇すると思われる。このバリケードは扉の近くの机とイスだけなのでこれを築くのに20秒位でできた。



写真 3

防犯講習会の様子。不審者に出会った時の心構えや行動などを警察署の方から説明を詳しくしていただいた。

「薬物乱用防止教室・暴走族加入阻止教室」などで以前も来校していただいている。

## 5 今後の課題

不審者侵入に対するマニュアルはあくまでもマニュアルにすぎない。実際の現場では、いかに素早く正しい情報を伝達し、生徒の安全はもちろん教職員の身の安全も図っていくかが重要である。

不審者対策避難訓練も侵入経路および凶器などの想定を変えて、万が一の時に実行できる訓練の積み重ねが必要である。

また、不審者対策避難訓練の実施をとおして、生徒の防犯意識と命の尊さの指導のあり方も今後検討していく必要がある。

それから、今回刺又を使用しなかった教職員も実際に使用する講習会などを開いて、効果的な利用方法を体験しておく必要があると考えられる。

資料2) 近隣の警察署からいただいた校内不審者侵入対策 (具体的な対応要領)

### 前 提

- ・不審者の侵入が把握できること
- ・学校周辺にも協力を依頼していること
- ・校内出入り業者に協力を依頼していること
- ・子どもたちへ指導していること
- ・教職員間の連携がとれ、共通の認識・理解があること

### STEP 1 まず説得

- ・こんにちは ■冷静に対応する
- ・ご用件は? ■興奮していればまず落ち着かせる
- ・どちら様ですか? ■用件を聞く(話を聞かずに願えませんか?) いてやる
- ・授業中ですからお静かに願えますか? ■柔らかく説得するのでこちらでお待ちください。

声をかける／冷静に対応する

### STEP 2 不審者の誘導

- ・別室で〇〇が伺います ■対応は教頭が原則 ■対応場所を決めておく
- ・授業中ですから時間をく ■複数で対応するをおいて来てもらえませんか?
- ・当校に用事がなければお帰りください。

素早い校内伝達／連携した対応

### STEP 3 暴れている凶器を持っている

- ・誰が対応するの? ■そこにいる者が ■子どもと自分の身の安全を確保する
- ・身の安全の確保は? ■机、イス、定規、箒
- ・身近な道具の活用を ■消火器の活用 ■刺股の活用

### STEP 4 生徒の対応

- ◇誘導・待機は防災訓練と同じ
- ◇教職員の意志通りに生徒を動かす
- ◇教職員は周囲をよく見て状況を判断する

### 侵入者の位置の把握と児童生徒の誘導先

- 近ければ逃がす
- 遠ければ待機

### 道具はどうやって使うの?

- ・身近にあるものを使う →机、イス、消火器
- ・凶器の種類は? →払い落とす

### 刺股(さすまた)の使用

- ・刺股は諸刃の刃 →てこの原理で不利な立場に左(右)肩から右(左)脇下・肘から先などを壁を利用して押しつける

### 用具を利用する際の配慮事項

- ・道具の使用は相手を →用具を見て興奮する刺激しないように こともある(先に使用しない)
  - ・押さえつけるのが目 →攻撃ではなく、相手の動けないようにする
- 消火器の利用も効果的

### 通報はどうやってするの?

- ◇学校名・所在地 → 〇〇中学校です
- ◇事案名 → 不審者の侵入です
- ◇人数 → 相手は〇人です
- ◇凶器の有無 → 手に〇〇を持っています
- ◇不審者の動向 → 不審者は〇〇にいます
- ◇現在の状況 → 〇〇が相手をしています  
が興奮しています
- ◇怪我人の有無 → 今のところ怪我人はいません

実際の現場では、いかに素早く正しい情報を伝達し、生徒の安全はもちろん、自分の身の安全を図っていくのが第一です。